

今年は、自然災害に多くみまわれ、秋には台風等による水害もおこり、他人事ではないと、心を傷めている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？  
そんな中、ストレスで免疫力が低下している方が多いのか、例年よりも早い時期から、**マイコプラズマ肺炎**や**RSウイルス感染**という呼吸器疾患が急増しており、マイコプラズマ肺炎に至っては、過去10年間で最も多い患者数と国立感染症研究所から報告されています。



今回はこの「マイコプラズマ肺炎」についてお話ししたいと思います。

## マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎は、飛沫感染（咳やたん等による人から人への感染）などにより、比較的小集団内で流行を起こすことが特徴の1つとされています。かつては、4年に1度のオリンピック開催年に、大きな流行を繰り返したため、「オリンピック病」と呼ばれていました。










最近ではこの傾向も崩れ、毎年初秋から冬にかけて発症し、幼児から30代の若年層がかかりやすいと言われています。



症状は、初めは頭痛、発熱、せき、全身の倦怠感など「風邪」症状とにているため、その見極めが難しいとされています。

その後、発熱や他の症状が消えても、咳がなかなか改善せず、長期に渡って続き、夜間や早朝にひどくなることが多くみられます。

ほとんどは、軽症で済みますが、中には髄膜炎や脳炎等重症化し、命にかかわるケースもありますので、薬を飲んでも長く咳がつづいている場合は早めに受診し、当院にてご相談下さいネ。

潜伏期間	年齢	症状	診断	予防
2~3週間 	小児 若年層	発熱  倦怠感  長びく咳 (起床時、夜間に特に強くなる) 	・血液検査  ・X線 	うがい  手洗い  マスク  人ごみをさける

## 佐々木内科クリニックニュース

10月20日に開催された「感染症講演会」のパネリストの1人として当院院長が、講演致しました。  
今回、お話しした「マイコプラズマ肺炎」にも関る“患者視点から見た抗菌薬への期待”というテーマでお話ししましたが、大変好評でした。  
またこのような講演にて、参加しましたら、皆様にお知らせしたいと思います。



## お知らせ

### インフルエンザ予防接種



10月21日より予防接種を開始致しました。  
定員になり次第終了となりますので、受付又はお電話にてお申し込み下さい。

	1回目	2回目
1歳以上3歳未満	2,500円	2,000円
3歳以上 大人	3,000円	2,500円
堺市居住の高齢者（満65歳以上）		1,000円

- ※・子供（13歳未満）の方は2回接種をおすすめしています。
- ・また、当院にて、2回接種の方のみ値引きさせていただいておりますので、ご了承下さい。
- ・年齢確認の為、母子手帳・健康保険証を忘れずにお持ち下さい。

予約電話番号



072-250-0200

## 冬休みのお知らせ

12月30日（金）～1月5日（木）まで **休診** とさせていただきます。

（12月29日（木）午後休診です。）

よろしくお願い申し上げます。



## 編集後記

最近の気候の変化には、なかなかうまくつきあえず、体調を崩しがちなのですが、私の子供達もおふとんをけとばしてお腹が出ていることもしょっちゅうなので夜中に1回・朝方1回、おふとんをかけに行き、寝不足がつづいています。  
パパには自分でかけて～と思いつつついでにかけてあげています。  
子供たちがお腹を出しちゃうのはパパからの遺伝でしょうか？



携帯サイト

